

クラブチームの 運営と育成。

【福岡】

大勢、各々各々のメンバーと練習試合の運営は、
メンバーの成長のためだけでなく、チームの運営も
重要な役割を担っている。また、メンバーの成長を
促すための練習メニューや、試合の運営も重要な
役割を担っている。



Let's play! Try it!

スキルアップ講座③
講師：佐藤 誠二 / 福岡県立大学
副講師：佐藤 誠二 / 福岡県立大学

トップチームと行政で地域密着の環境を整備する。

子ども同士の口コミは、重要な仲間獲得方法。

基本的な教育を家庭で受け、学校で社会性を学ぶ。 全員で戦うラグビーで、そこに枝葉をつけてあげる。

福岡市と北九州市のちょうど中間、福岡県宗像(むなかた)市を活動拠点とする玄海ジュニアラグビークラブは、今年で創立10周年を迎える。ジュニアラグビーの中心地・福岡にあつては比較的歴史の浅いチームに分類されるが、近年は小学生、中学生ともに県大会や九州大会で上位に進出し、県選抜にもメンバーを輩出するなど、進境著しいクラブのひとつである。

世界遺産への登録を目指す「海

の正倉院」沖ノ島や、交通安全の神として有名な宗像大社、玄界灘の新鮮な海の幸など、豊かな観光資源を持つことで知られるこの地に新たなラグビースクールが誕生した背景には、宗像にホームグラウンドを持つ社会人チーム、サニックスの存在があった。創部から破竹の勢いで九州のトップへと駆け上がったサニックスだが、右肩上がりに成長する戦績とは裏腹に、地域住民の関心は伸び悩んでいた。しかしラグビー文化を定着させようにも、サニックス単独では限界がある。そこで持ち上がったのが、「宗像にもラグビースクールを作ろう」という提案だった。

週末に時間のとれる人材が多かったこともクラブの発展を後押しした。創立時25人だったスクール生も現在は140名まで増加し、指導陣には100名ほどが名を連ねる。年会費は1万5千円で、兄弟の場合は3人目から無料。コーチは基本的にスクールの保護者が務めるが、自分の子どもが所属する学年以外のチームを持つ、というのがクラブのルールだ。

「やっぱりこの素晴らしい芝のグラウンドを使える、というのが最大の魅力だったんです」そう振り返るのは、クラブ創設の中心人物にして現在会長を務める宇治川福男さんだ。宇治川さんは福岡高校、明治大学OB。当時は福岡市内で自営業を営むかたわら、県内の強豪・草ヶ江ヤングラガーズの指導に携わっていた。そんな宇治川さんのもとへ、明大時代の後輩でサニックススポーツ財団に勤務する井上登喜男氏から「ラグビースクールを作りたいので、協力してほしい」という相談が届く。宇治川さんはこれを快諾。天然芝のグラウンドや設備を無償で提供するというサニックス側の好意も受け、話はトントン拍子に進んだ。

「地域のためにグラウンドを自由に使ってもらいたい、というのでした。芝生の上を走るだけで子どもたちは喜ぶし、ケガも少ないですからね。環境的には本当に恵まれていると思いますよ」

インフラの面でサニックスから強力なバックアップを受けたことに加え、「公務員が多い土地柄(宇治川会長)」という点もあって、指導者として工夫のあとがうかがえる。チームの理念は「全員で戦う」。スクール卒業後もラグビーを続けていってほしいからこそ、この世代では勝利だけに価値を見出すのではなく、子ども全員が試合に出場できることを重視しているという。「勝ちたいからいい子だけを出す、というのではしません。ラグビーには足が遅くてもできる役割がある」と語るのは、事務局次長を務める榊島祐介さんだ。指導上の注意点を聞くと、「まずはケガをさせないための安全対策。またラグビーはコミュニケーションが大切なスポーツなので、具体的な声をしっかりと出させることですね」との答えが返ってきた。

に工夫のあとがうかがえる。

「九州はレベルの高いチームが多いですが、ウチは子どもを強制せず、和気あいあいやって行こう、と言っています。もちろんやるからには勝ちたいんだけど、先々の人生を考えると、負けることもいい勉強になりますから」(宇治川会長)

中学部の新チームで主将を務める谷山俊平君は、「他のスポーツと違って激しいところが楽しい」とラグビーの魅力をハキハキとした口調で語ってくれた。グラウンドから10mほど離れた赤間駅の近くから、毎週自転車やおばあちゃんの車に乗せられて練習に通っているそうだ。将来の目標は「ワールドカップに出たい」。すでに身長180cmの大型SO、

PRESENT

玄海ジュニアラグビークラブ、福岡サニックスブルースが活動する宗像市から嬉しいプレゼントのお知らせです。玄界灘の海の香りがギッシリ詰まった「玄海特産のウニの瓶詰め」10本(1本1500円相当)を読者の方5名様(2本1セット×5名)に。希望される方は、ハガキに住所、氏名、年齢、電話番号、職業(または学校名、所属チーム)、この記事を読んでの感想、応援メッセージを記入の上、

〒101-8361
(株)ベースボールマガジン社 ラグビーマガジン編集部
「ラグビークリニック 玄海ウニ」係

までご応募ください。
締め切りは3月20日(当日消印有効)です。



2015年の自国開催大会で、なんて、想像するだけでも楽しい。
サニックスとのかかわり合いはグラウンドの提供だけに留まらず、引退したOBがコーチをかつてたり、オフシーズンには現役選手も練習に参加したりすること。選手の子どものスクールに通う生徒も多い。こうした年代の頃にトップリーガーとグラウンドでふれあえる経験は、先々のラグビー人生に計り知れない影響をもたらすことだろう。「いつも応援してくれりし、ホームゲームでは入場の際のエスコートキッズを玄海の子たちにお願ひしています。今後はウチのジュニアチームのよう存在になってもらえれば」とは、福岡サニックスブルー

スの北野義信渉外担当。

またホームタウンである宗像市も、サニックスとの連係を含め積極的に玄海ジュニアをサポートしていく構えだ。現在は市内のほとんどの小学校で体育の授業にタグラグビーを取り入れており、若年層のラグビーに対する認知度は飛躍的に上昇した。コーチには宗像市役所に勤務する人も多く、市民にラグビーが定着しつつあることを実感しているという。ちなみに今年の成人式では、式終了後に新成人をグローバルアリーナでの福岡サニックスブルース×ヤマハ発動機ジュビロ戦に招待したとのこと。重要な歴史遺産や豊かな海産物とともに、都市発展の柱としてラグビーにかかる期待は大きい。

「市民スポーツとして、市としてもラグビーによる街づくりを支援していこうということとです。百何十人という子どもが参加する団体というのは、市にとって大切な存在ですからね。将来的には駅前にミニユメントのようなものを作ったり、ラグビータウンと呼ばれるような方がいいですね」(宗像市役所・経営企画部の高橋勇次さん)

ラグビーがつなぐ人の輪は、それまで楯円球とはなじみの薄かった宗像の街に、着実に根を下ろそうとしている。近年は大学、社会人の各クラブと自治体との連係が活発になりつつあるとはいえ、「地域密

着」という観点でラグビーが依然サッカーや野球に遅れをとっているのは事実。こうした取り組みが全国に広がれば、日本ラグビー界の未来はもっと明るくなるに違いない。



創立時はわずか25人だったスクール生も、いまでは140名と大所帯に。指導陣も100人と、活動日はいつもにぎやか



女の子も参加。みんな、バスのおもしろさ、トライの嬉しさが忘れられなくて、ラグビーにとりつかれる。

Let's play! Try it! ストップ&コール

方法
5に四方のグリッドを使用。1人1個ボールを持って、コーナーに立つ。各コーナーからスタートして真ん中で同時にストップ、あらかじめ決めておいたキーワード(ハロー、おはよう等何でも可)を大きな声で発し、マーカーを回って対角の相手にボールを渡す。

ポイント
走る、止まる、さらにリスタートからの素早い動き出しを意識づけるためのドリル。大きく声を出すことで試合中のコーリングにつながる狙いもある。ストップ、コールのタイミング、回る方向を4人で合わせることも重要。

